

「区画整理と街づくりフォーラム 2020」 概要

令和2年11月12日、13日の2日間にわたり、「区画整理と街づくりフォーラム 2020」が、兵庫県神戸市において開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に論文審査委員会において審査を行い、各分科会の優秀論文を決定した上で、優秀論文のみを発表いただきました。当日は、約220名のご参加を頂き、貴重な情報交換の場となりました。以下、概要を報告いたします。

1 概要

[1日目]

■日時：令和2年11月12日(木)13:00～17:40

時間	内容
13:00～	開会、論文発表会の概要説明 優秀論文表彰式等
13:30～	①優秀論文発表(3編) ②招待論文発表(3編)

[2日目]

■日時：令和2年11月13日(金)9:50～15:50

時間	内容
9:50～	開催地挨拶(神戸市長 久元 喜造様)
10:00～	基調講演 (国土交通省都市局市街地整備課長 菊池 雅彦様)
11:00～	特別講演 (松山市長 野志 克仁様)
13:10～	パネルディスカッション
15:20～	表彰式 (街づくり区画整理協会による会長賞、功労賞)

2 主催者等

■主催：区画整理と街づくりフォーラム実行委員会(7団体)

- ・全国土地区画整理事業推進協議会
- ・市街地整備促進協議会
- ・(一社)全日本土地区画整理士会
- ・(公財)都市づくりパブリックデザインセンター
- ・(公財)区画整理促進機構
- ・(独)都市再生機構
- ・(公社)街づくり区画整理協会

■共催：(公財)東京都都市づくり公社

■後援：国土交通省、兵庫県及び神戸市

3 区画整理と街づくりフォーラムの内容

[1日目]

(1) 優秀論文表彰式

街づくりや事業実施にあたって、様々な創意工夫を持って取り組んでいる事例・計画であり、これからの街づくりや区画整理事業に大いに参考となる論文に対して優秀賞が贈られました。

分科会	優秀賞受賞者
第一分科会	玉野総合コンサルタント(株) 前田 亘輝 様、加藤 勤 様 小野 耕輔 様
第二分科会	玉野総合コンサルタント(株) 峯 亜衣子 様
第三分科会	神戸市役所 瀬原 稜真 様



優秀賞受賞者

(2) 優秀論文・招待論文の発表

テーマ別に3つの分科会に分かれ、招待論文3編、優秀論文3編の計6編の論文発表を頂きました。今年度の各分科会のテーマは下記の通りです。
※招待論文・優秀論文・応募論文はホームページの「論文発表一覧」に掲載しております。

分科会	テーマ名
第一分科会	持続可能で地域価値を高めるまちづくり
第二分科会	区画整理における計画的工夫
第三分科会	区画整理における技術的工夫

[2日目]

(1) 基調講演

国土交通省都市局市街地整備課長の菊池 雅彦様から『市街地整備 2.0 とニューノーマルに対応した街づくり』と題して、令和2年度都市局予算概要(市街地整備関連)、都市再生特別措置法の改正、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり、スマートシティ、市街地整備 2.0、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性、令和3年度都市局関係概算要求概要等についてご講演をいただきました。



**基調講演：国土交通省都市局市街地整備課長
菊池 雅彦 様**

(2) 特別講演

愛媛県松山市長の野志 克仁様から『ウォーカブルなまちづくりの実践～愛媛県松山市～』と題したご講演をいただきました。「歩いて暮らせるまちづくり」の実践として、ロープウェー通り、道後地区、花園町通りのリニューアルの成果をご紹介します。また、現在進行しているプロジェクトとして、松山市駅での広場整備や JR 松山駅の周辺整備によるコンパクトシティのシンボル空間の創出を図る取組みなど、大変示唆に富んだお話をいただきました。



特別講演：松山市長 野志 克仁 様

(3) パネルディスカッション

■テーマ

持続可能で地域価値を高めるまちづくり

■コーディネーター

日本大学理工学部 特任教授

(一財)計量計画研究所 代表理事

岸井 隆幸 様

■パネリスト

・(有)ハートビートプラン代表取締役

泉 英明 様

・神戸芸術工科大学 環境デザイン学科教授

小浦 久子 様

・東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授 馬場 正尊 様

[概要]

“持続可能で地域価値を高めるまちづくり”をテーマに、各地で具体的なまちづくりに深く関わっている方々をお招きしてパネルディスカッションしていただきました。



**コーディネーター：日本大学理工学部 特任教授
(一財)計量計画研究所 代表理事岸井 隆幸 様**



(有)ハートビートプラン代表取締役

泉 英明 様

泉氏は、5～10年のあいだ地域に密着し、事業化やその後の維持に関わっている事例として、北浜テラス、なんばひろば改造計画、長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクトの取組みをご紹介します。持続可能なまちづくりのためには、最終的な運営・マネジメントを最初に想定して、ビジョン策定や事業性の確認を行い、ハード整備に落とし込むことが今後必要となるとお話いただきました。



神戸芸術工科大学 環境デザイン学科教授
小浦 久子 様

小浦氏は、地域価値を見出し、その保全と創造を図るための事例として、四万十川条例と神戸の都心再生についてご紹介いただきました。都市が変化することや暮らしの営みを「変化」、地域性や環境基盤を「持続」と捉え、その「変化」と「持続」をつなぐところに「地域価値」がある。地域価値の保全と創造には、他にないものを大事にするという「価値の保全」と、今ある資源をつかった地域づくりによる「価値の創造」が重要であるとお話いただきました。



東北芸術工科大学
デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授
馬場 正尊 様

馬場氏は、オルタナティブなまちづくりの方法として、山形市内のシェアアパート「ミサワクラス」を始めとした、エリアリノベーションの事例等をご紹介いただきました。今後のまちづくりでは、従来の計画的都市から、個々が工作するように関わっていくような工作的都市へのイメージを描いていくことが必要なのではないかとお話いただきました。

その後のディスカッションでは、岸井先生のコーディネートにより活発な議論が展開され、泉氏からは、良いプロジェクトを継続させるには、最初から皆で合意形成をつくってビジョンをつくるのではなく、少数でも良いので尖ったビジョンを持つことが必要なのではないかとお話いただきました。

また、「いまのオンライン、ネットワークの時代は、まちづくりにとって何が変化となりそうか。」という話題では、小浦氏から、水道や下水道と同じように、ICT は都市の基盤になっていくのではないかと。そこでできること、どこまでできるかというのはこれから。何に都市基盤の未来を託すのか、という選択を都市はしなければならない、とお話いただきました。

持続可能で地域価値を高めるために今後考えなければならないこととして、馬場氏からは、区画整理をするときのオプションと順番を考える必要があるのではないか。また、計画は、マネジメントを先に考える、もしくはデザインとマネジメントを同時に考える等の、プロセスを変えると変わっていくのではないかと。小浦氏からは、現在、空き地や空き家が増加する中で、土地を動かしていくことで環境を良くしていかなければならないことが多く起こっていくと思う。区画整理は、手法論としてはずっと生きていくのだと思う。また、基盤の再編に用いることで、良好な環境やまちを生み出していくことに対してうまく使っていけば色々な可能性があると思う。泉氏からは、ビジョンを持った人が地域で何かをしたい、使いたい、ということを実現できるように所有と活用の基盤を変えられたらよい。地域の一部が変わることで、地域全体のイメージを変えることを解決できるような手法となったら良いと思う、とご意見をいただきました。

ディスカッションの最後に、岸井先生から、“持続可能で地域価値を高めるまちづくり”は、区画整理でやろうとしてきたことそのものだと思う。区画整理を事業手法として整備が進んできた現在、本来価値を高めるための基盤の中身が変わってきている。今後は、まちを動かしていくというところまでを含めた手法として展開すべきではないかとまとめていただきました。今後のまちづくりへの展望について、多角な視点から議論いただき、非常に示唆に富むパネルディスカッションとなりました。

